

# 巻 頭 言

日本東洋医学研究機関連絡協議会会長

北里研究所東洋医学総合研究所所長

花 輪 壽 彦

平素は日本東洋医学連絡協議会（日東医協）の活動に対して、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

いつも申し上げますように、この協議会の設立目的は各研究機関の横の連携を密にして、国内外の諸活動を円滑に進めようというものであります。

大学を中心に漢方や鍼灸の研究活動が活発になっております。ツムラの寄付講座として発足した大学内の講座も増えました。

21世紀はおそらくこうした大学レベルの研究機関を中心に関連企業やベンチャー企業、あるいはこれまで東洋医学とは無縁であった製薬会社やハイテク産業との共同研究が東洋医学の研究に新たな展望を作り上げていくことでしょう。国家プロジェクトの中でも例えば文部科学省が産学一体となった伝統医学の研究を支援する旨公開してお

ります。

世界中で伝統医学への関心が高まっており、NIH やヨーロッパの対応は看過できない状況になっています。冗談として使われる言葉に、情報を断たれると企業は生き残れないという意味で「情断」というものがあるそうです。情報時代に遅れをとるなど叱咤してネットワークの充実をと説いた経営者の言葉です。

本年も各研究機関におかれましては活発な診療・研究活動が遂行されたことと拝察いたします。今回も例年どおり所属協議会からの活動報告書を御提出いただき、事務局でまとめ日本東洋医学会学術総会会期中（平成16年6月27日（日曜日）昼食時を予定）に本会の総会を開催したいと考えております。どうぞ御協力お願いいたします。